

梅雨入りの発表があり、本格的に雨の季節となりました。校庭のガクアジサイがひととき生き生きと鮮やかに見えます。

さて、この夏の季語に「黒南風（くろはえ）」と「白南風（しろはえ）」という言葉があります。前者は梅雨時の湿った南風の意味、後者は梅雨の晴れ間もしくは明けた後の南風の意味です。

単なる「風」と一言で済ませてしまうこともできますでしょうが、それではどこか皮膚感覚まで鈍ってしまうような気がします。「名付けられることで存在する」と言ったのはソシュール（スイスの言語学者）でした。「言葉」と「存在」との関係について、もう少し深く思索していきたいと考えています。



目の合ひて緩む口元額の花 幸恵

